東北ダンプ

【発行】全日本建設交運一般労働組合（略称・建交労）東北ダンプ支部準備会
〒010-0976 秋田市八橋南 1-2-29
建交労秋田ダンプ支部内
2022 年10月1日発行　NO.4　TEL018-823-7748　fax018-823-7751
Email：kenkourouakita@bz03.plala.or.jp

2017 年 4 月のトラックダンプデモにて　秋田ダンプの加藤さん　大会に参加します

建交労東北ダンプ支部結成大会

日 時　2022 年 10 月 22 日(土)

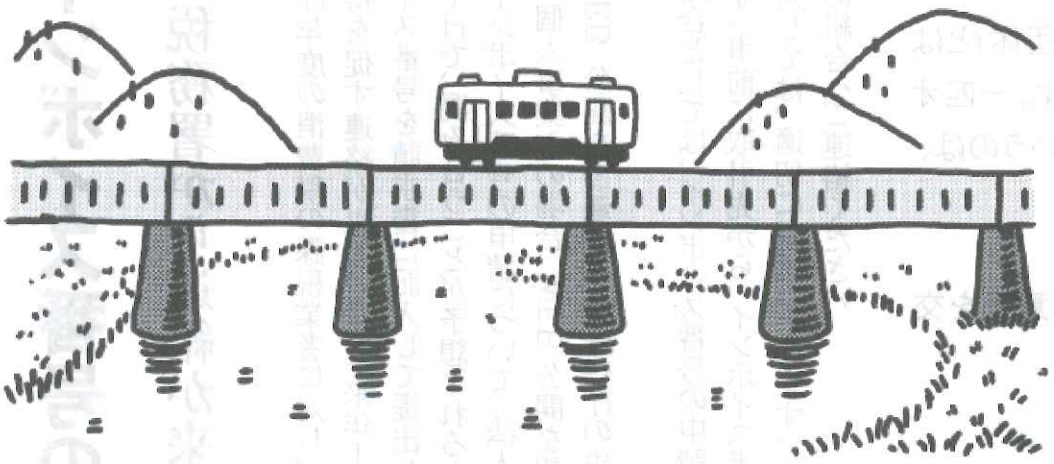
13:00～　各支部臨時大会（広域支部への移行確認）

※事前に開催されていれば、省略します。

14:00～　東北ダンプ支部結成大会

18:30～　広域支部結成記念・団結懇親会

会 場　福島市飯坂温泉・ホテル「大鳥」



燃料高騰に見合った運賃引き上げを

今年の 5 月、日本共産党の武田良介参院議員にお願いして、ダンプの常用単価について質問して貰いました。斉藤国交大臣からは「10t ダンプの直工費は 60,000 円、常用単価は 75,000 円である」との回答がありました。

東北各県の一般的なダンプ単価は、36,000 円～40,000 円です。現在、建交労が求めている単価は 53,000 円（税込 58,300 円）であり、福島や宮城では、すでに11ヶ所の現場で合意書が出来ています。

軽油やタイヤの高騰は、ダンプの生活を大きく圧迫しています。当面の世界経済の情勢を見ると、残念ながら軽油などの高止まりは避けられません。

一方で、震災復興工事などが一段落している事から、ダンプがダブつき始め、我慢の出来ない業者などが運賃をどんどん下げています。

建交労全国ダンプ部会の運動を抜きにして、ダンプの単価を上げる事は絶対に出来ません。組合に加入していないダンプ業者の取引は「商取引上の契約」です。ダンプが足りない時は上がるけれども、ダンプが余ると下げられます。これを繰り返していたのでは、38,000 円を境にして行ったり来たりです。

全国ダンプ部会の特徴は、全ての公共事業で優先使用される立場を持っている事です。この立場は「政府交通対策本部決定」に明記されています。なぜ、優先使用されるのかというと、「ダンプ運賃の値上げ活動」を一貫して行なっているからです。一般のダンプ事業者は、建設業界に対して、値上げ交渉はやりませんし、やったら仕事がなくなるというジレンマを抱えています。

ダンプ規制法の理屈で言うと、全国ダンプ部会が運賃値上げ活動をやめたら、優先使用の立場も失います。だから各県に専従者を配置して、年がら年中活動しているのです。

「建交労のダンプを 53,000 円で優先使用して下さい」との申し入れを、元請ゼネコンが断った場合、直ちに「建設業法違反行為」となり、発注当局も指導せざるを得ないことになります。

当面の目標は、山形、岩手、秋田、青森などでも、多くの現場で 53,000 円を実現する事です。秋田道の大型工事で、53,000 円の合意が出来ましたが、就労開始は来年になります。組合の新聞を読んで、組合の集まりに参加して、誰でもが 53,000 円で働ける東北ブロックにしましょう。

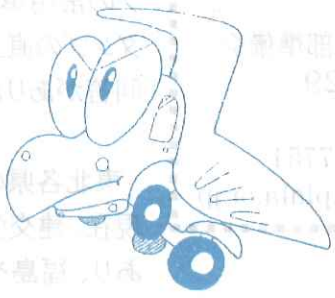
右の写真は、釣り上げられたイトウ。1メートル以上はある。（インターネットのフリーの写真から）漢字では魚へんに鬼と書く。

晴釣雨読（せいちょううどく）

淡水に棲む最大の淡水魚イトウは18度以下の水域で、流れが緩やかな河川を好み、主に北海道が生息域である。▼希少情報、青森県のごく限られた河川に棲息確認がある。▼山形県旧朝日村の山奥の「大鳥池」に棲む正体不明の魚いる。目撃情報によれば魚体はオレンジ色で（イトウの婚姻色）体長は2メートル以上もある謎の未確認生物と言うことで、伝説の巨大魚として語り継がれている。▼イトウは20年以上の長寿で成長スピードが遅く、成魚に育つまで十数年を要す。▼道北部の朱鞠内湖や天塩川などに生息していて、1メートル程に成長すると同類の魚以外にネズミ、ヘビ、水鳥などの動物までも捕食する。▼先住民アイヌ民族が語り継ぐ伝説「更科源蔵/更科光著のコタン生物記」にイトウの記載がある。▼狩人が熊を見つけて後を追って行くと、熊は然別湖に飛び込み泳いで行った。ところが突然湖面が波立ち、間もなく熊がブクブクと沈んで見えなくなった。熊を追かけていた狩人は船を漕ぎ出して何が起こったのか確認しようと熊のそばへ向う。▼すると、4、5メートルもあるイトウが熊を飲み込んで喉頭に詰まらせ、口から前足を少しのぞかせて死んでいた。▼どう猛で淡水最大のイトウだからこそ、そういった伝説が生まれたのであろう。▼絶滅危惧種なので食味は難しいが、養魚場が青森にある。脂がのる時期は10月から3月、ご賞味あれ。

高橋 渓峰

岩手県内の使用促進闘争



岩手県内でも、昨年から本格的に「使用促進闘争」に取り組んでいます。これまでの活動は、東北ブロックがゼネコンとまとめた工事について、現場サイドの打合せに行く程度でした。

発注者の顔ぶれは様々ありますが、あぶはち取らずとならない様に、国交省の発注工事に絞って交渉しています。

最近の出来事では、奥州市の栗原建設との合意が出来た事です。この会社は昨年、北上川の河道掘削工事を2件受注しましたが、建交労への対応は「ダンプは使わない工事だ」と嘘の説明を行ないました。しかし、ふたを開けてみれば、1日60台も稼働していました。組合は粘り強く交渉しましたが、残念ながら工事は終わってしまいました。

今年も栗原建設が一関遊水地整備工事を受注したので、あらためての交渉を行ないました。相手は昨年同様に、「ダンプは使わない工事だから」と断わる予定だったと思います。組合は昨年の経験から学び、発注者である国交省から正確な指導を行なわせ、組合からは、ダンプ規制法成立の経過と目的、県内他社の対応などを説明しました。その結果、「使用促進措置を取ります」との回答を得ることが出来ました。

適正単価の実現

使用促進闘争の最大の目的は「適正単価の実現」ですが、その他にもナンバー問題や社会保険加入問題などの解決に役立つ様々な面があります。全国のダンプカーの登録台数の 60%は白ナンバーですが、現場サイドでは「青ナンバーでないと使えない」と断られることもあります。

公共工事優先使用の対象となっている「ダンプ規制法第12条団体」とは「一匹オオカミをも組織している団体」と国会で確認されています。一匹オオカミとは白ナンバーダンプの事です。白ナンバーが違法だというのは、全く根拠のない「ガセネタ」なのです。

岩手ダンプでは現在、県内の3社と交渉しており、いずれも合意書を交わすまで粘り強く闘います。組合員の結集こそが最大の力です。

鳥海山と鳥海湖　2022年9月18日

岸田内閣は9月27日、安倍元首相の「国葬」を反対の世論が半数を超える中、強行しました。

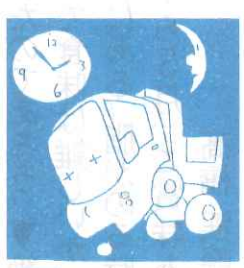
「国葬」は、戦前、天皇が「功臣」の功績をたたえて戦時体制のため使われました。戦後、日本国憲法が生まれた後、 戦前の「国葬令」は、日本国憲法の国民主権、基本的人権の尊重とは相いれないとして失効しました。今回、岸田内閣は、国権の最高機関の国会を無視し、失効したものを閣議決定でよみがえらせ、「国葬」を強行しました。

安倍氏自身、「森友」「加計」「東京五輪汚職」など、政治の私物化は目に余るものがある、とても問題の多い首相でした。とくに「桜を見る会」疑惑では国会で実に 118 回もウソをついていたというのは日本の政治の汚点です。また憲法違反の集団的自衛権の行使を閣議決定だけで認め、さらには安保法制を国会で強行するなど、立憲主義は次々に破壊されました。安倍氏は気の毒な亡くなり方をしたけれども、「国葬」に値する方でしょうか。

国民はコロナ禍や円安、物価高騰で苦しんでいます。自民党政治を国民は見放しつつあります。

インボイス番号の申請

税務署から連絡が来ていませんか



昨年度の消費税の課税業者に対し、仙台国税局や各税務署から、インボイス番号の取得を促す連絡が来ています。来年10月から始まるインボイス制度。（取得したインボイス番号を請求書に記入して提出します）インボイス番号の申請期限は、来年3月31日で、混み合うことが予想されるため、事前に連絡をしているとの事です。

インボイス番号の申請について、法人が申請した場合、自動的にWEB公開されますが、個人事業主の場合、WEB公開を望む場合は、申請書がもう一枚必要となります。（WEB 公開を了承すると国税庁のホームページから、検索することが可能となります）

組合としては、インボイス番号の申請については、自主計算会を通して、対応していきます。事前に取引先から、インボイス番号を早めに取得してほしいと話があった組合員に対しては、適切に対処しています。仕事の仲間でインボイス制度にお困りの方は、各県の組合へご連絡ください。